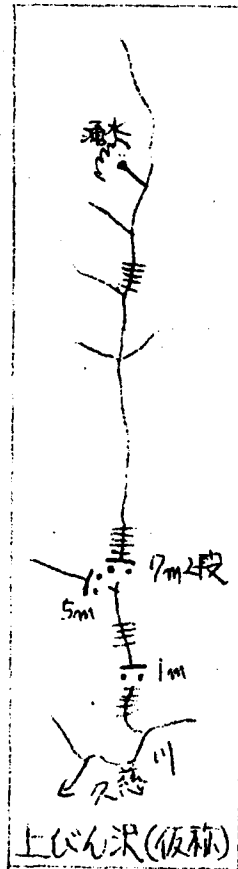
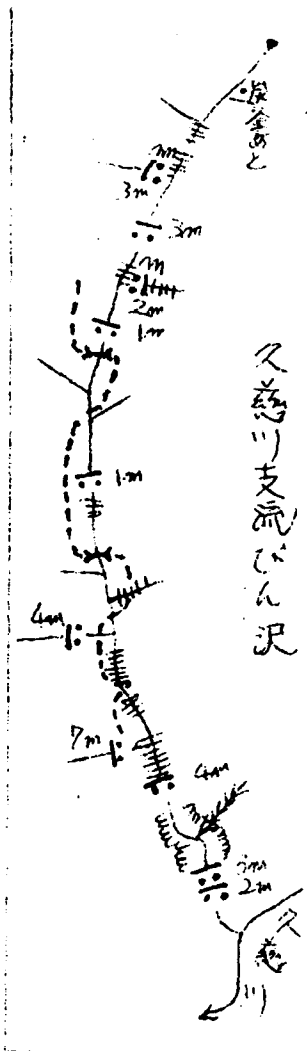


けのまま沢は終わった。

再び本流に戻る。2mの滝を越えると五ノ沢(仮称)出合。五ノ沢も岩屑がいっぱい積み重なっているだけで、何もなく、源頭は小さなガレとなっていた。

本流の方ももう何も出てこない。そして崩れた岩屑で埋まるようになるともう源頭である。やはり第3紀層になると何も出てこないということを実感させた沢であった。

【タイム】 ウの沢出合(8:05)→一ノ沢出合(8:15)→一ノ沢左俣終了・右俣下降開始(8:35)→ウの沢本流(8:50)→三ノ沢出合(9:00)→三ノ沢終了(9:20)→二ノ沢出合(9:30)→二ノ沢終了(9:40)→ウの沢本流(9:50)→四ノ沢出合(9:55)→四ノ沢終了(10:05)→ウの沢本流(10:10)→五ノ沢出合(10:15)→五ノ沢終了(10:20)→ウの沢本流(10:30)→ウの沢終了(10:40)



上びん沢(仮称)

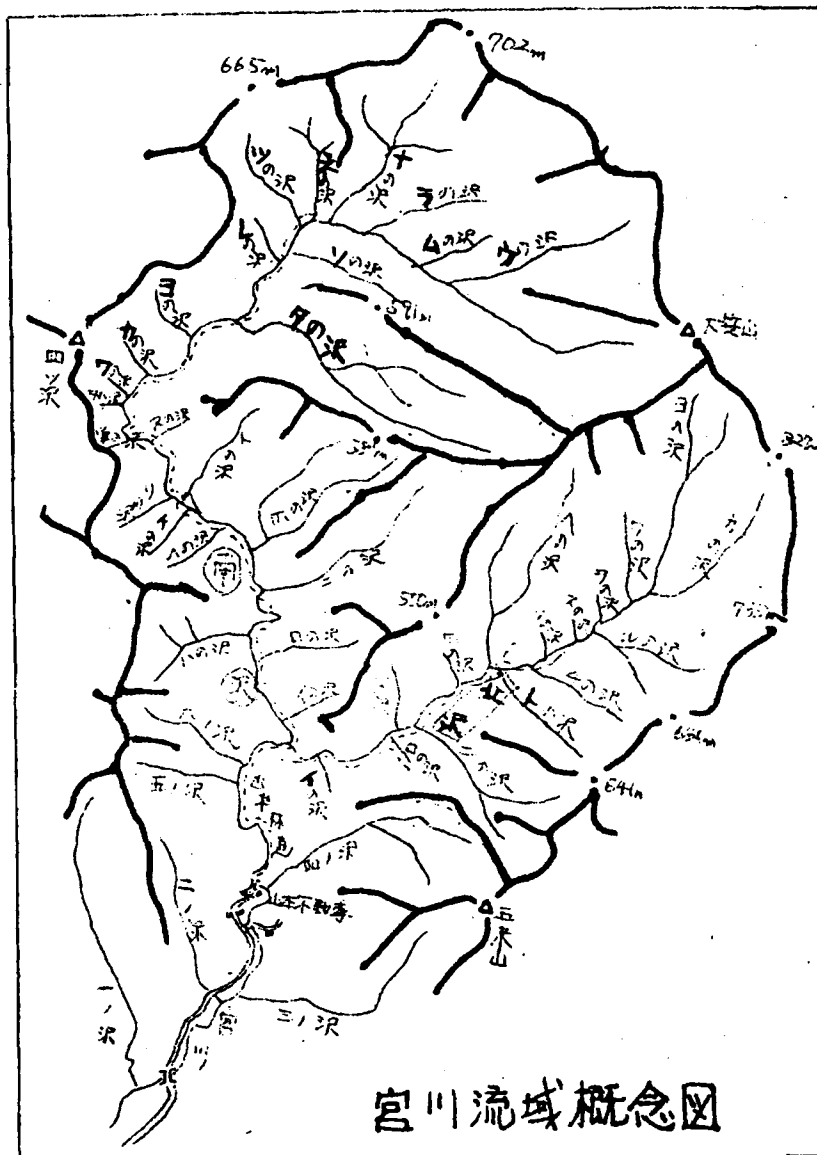
1987年9月15日

出合に車を止めて、7:10上びん沢(仮称)の遡行開始。しっかりした砂岩質の沢床が続く。まもなく小さなナメを越え、7m2段滝が出てくる。これはついていると喜こんだが、あとが続かない。何カ所かナメがあっただけで、平凡なまま源頭に達してしまった。遡行終了8:30。 (前)

【タイム】 出合(7:10)→遡行終了(8:30)

びん沢 1987年9月15日

8:50びん沢の下降開始。急な斜面を下って行くと源



頭部。岩屑が
いっぱいこ
がっている沢
で、滝は期待
薄のようであ
る。

「今日はハ
ズレの沢だ。
この地域は岩
質によって滝
がかかったり、
何もなかった
りするから仕
方がない」と
話しながら下
る。やがて沢
ぞいに踏跡が
出てきた。

「これはいよ
いよもってハ
ズレの沢か。
まあこんなこ
ともあるさ」
と考えながら

下っていったら、突然ゴルジュ帯となった。しかし残念ながら滝はかからない。
ゴルジュ帯を越えた所は、もう久慈川本流との出合であった。下降終了10:15。

(記・西 和文)

【タイム】 下降開始(8:50)→下降終了(10:15)